

(Daily 日本史) ～室町幕府～

【問】 2002 年 立教大学 社会(社会/産業関係)

次の文 1～7 を読み、後の設問 A・B に答えよ。

1. 室町幕府は、足利義満の頃、管領、政所など中央機関をととのえた。また將軍の同族や有力な国人の子弟などで組織した¹⁾直轄軍を強化した。財政においても、幕府直轄地の(イ)からの収入のほか、国ごとに、臨時の支出をまかなうという名目で、田地に課す段銭、家屋に課す(ロ)などを徴収するようになった。
2. 1428 年、近江の坂本、大津を拠点とする(ハ)が徳政令を要求し蜂起するや、またたくまに京都・奈良をはじめ、畿内に広がり、『大乘院日記目録』が「(ニ), 土倉, 寺院等を破却せしめ」た事態を「日本開白以来、土民蜂起是れ初めなり」としてした²⁾一揆が起こった。
3. 鳥羽院政期に確立し、名主が年貢、公事を貢納する土地領有体制である(ホ)は応仁の乱により大きく揺らいだ。この乱の背景には、將軍継嗣問題があった。後嗣に定められていた足利義政の³⁾実弟と、妻の日野富子が生んだ義政の実子(ヘ)との將軍職後継をめぐる争いがそれである。
4. 東山山荘に隠退した足利義政が建立した慈照寺銀閣は、⁴⁾東山文化を代表する建築である。また、今日につながる和風建築の源流をなす(ト)が住宅建築様式として成立するにつれて、茶の湯・生花も生活文化として発展した。村田珠光が禅の精神を生かして創始した(チ)もその一つである。
5. 豊臣秀吉は山崎の戦い、⁵⁾賤ヶ岳の戦いに勝利した後、支配地が大きく拡大し、220 万石におよぶ直轄領である(リ)をもつことになった。さらに天下統一の事業として、太閤検地を実施し、諸種の権利が重複していた土地制度を整理した(ヌ)の原則をたてた。
6. 江戸時代、幕府や藩の家臣に対する給与制度として、領地の一部を分け与える(ル)制と、直轄地からの年貢を米や給金(銀)の形で支給する(フ)制とがあった。だが、⁶⁾商品経済がさらに浸透するにつれて、中下層を中心に(フ)受給の家臣が増加した。
7. 江戸期の商品市場は、2 種類の産品から成り立っていた。一つは藩の年貢米や特産物からなる蔵物で、その保管・売却には蔵元や札差があたり、売却代金の保管・送金には(ワ)があたった。もう一つは各地の商人が三都などに持ち込んだ生産物からなる(カ)である。こうした商業の発達には、商業の正当性と商人道を説く⁷⁾心学を生んだ。

- a. 石田梅岩 b. 手島 庵 c. 中沢道二 d. 西川如見

【解答】

A	イ	御料所	ロ	棟別錢	ハ	馬借	ニ	酒屋
	ホ	莊園公領制	ヘ	足利義尚	ト	書院造	チ	侘び茶
	リ	蔵入地	ヌ	一地一作人	ル	地方知行	ヲ	俸禄
	ワ	掛屋	カ	納屋物				

B	1	c	2	b	3	d	4	c
	5	c	6	d	7	a		